



国際センター通信 (No.17)

フィリピン台風調査の概要

2013年11月8日にフィリピンに上陸した台風30号(現地名 Yolanda)による甚大な高潮・高波災害の実態を把握し、その知見を同国における復興計画や日比両国の防災・減災対策に役立てることを目的とし、土木学会(以下 JSCE)はフィリピン土木学会(以下 PICE)との合同調査を実施しました。第一次合同調査は、最も甚大な被害が報告されていたタクロバンを含むレイテ島東海岸や東サマルを対象地点とし、2013年12月12日から16日にかけて実施しました。調査開始前日にはPICEのMomo会長、Pacheco 前会長もご出席いただき、現地被害状況の報告(PICE)や、数値解析結果の報告(JSCE)に基づき、調査計画の打合せを行いました。JSCEの第一次調査団には海岸工学、水工学を専門とする6名が、PICEからは海岸工学を専門とするCruz教授を隊長に、風工学、環境工学の専門家5名が実際の現地調査に参加しました。現地ではDPWH(公共事業道路省)の強力な支援をいただき、効率よく調査を行うことができました。



フィリピン台風調査団
団長 東京大学
田島芳満



Eastern Samar 海岸での調査

Yolandaによる災害では、強風による構造物の崩壊や被災後の豪雨等の影響により、浸水痕跡を識別することが困難でした。一方で、被災時に浸水域に留まっていた住民が多く、PICE調査隊による通訳を介した現地でのインタビューにより、多くの貴重な情報を得ることができました。その結果、報道等で広く知られるタクロバンを含むサンペドロ湾奥での甚大な高潮だけでなく、レイテ東海岸湾口部や東サマル東海岸では、高波を伴う高い浸水・遡上が起きていたことなどが明らかとなり、今後の高潮・高波に対する防災・減災対策を講じる上で非常に重要な知見を得ることができました。

第一次調査の結果は JSCE と PICE で共有するとともに、海岸工学委員会のホームページや Coastal Engineering Journal のテクニカルノートへの掲載を通じて公開しています。また1月下旬には第二次調査を行うなど、今後も PICE と協力しながら継続して調査および結果の分析を進めていく予定です。



Eastern samar 住民へのヒアリング



JSCE-PICE 調査団ミーティング

2013年 日韓道路橋維持管理セミナー開催報告

土木学会国際センター、国際交流グループ韓国グループでは、日韓の建設技術・人の交流、建設技術の協働展開を目的に2013年度よりセミナー等の企画・実施を両国で行うことにしています。



JSCE 磯部次期会長（左）と
KSCE 沈会長（右）

朴慶夫元韓国分会長、李東郁韓国分会長のご尽力を賜り、韓国土木学会（以下KSCE）との共催、韓国道路公社及び韓国建設技術研究院の後援による「日韓道路橋維持管理セミナー」を平成2013年12月23日にKSEC講堂にて開催いたしました。今回のテーマは、昨年9月の全国大会国際シンポジウムのテーマである「維持管理」の一つとして道路橋を取り上げました。磯部雅彦次期会長は、開催前の12月21日には沈名弼KSCE次期会長（今年1月より会長）、セミナー直前に沈鐘成KSCE会長を表敬し、日韓の技術協力や交流促進等について意見交換をするとともに、本年11月の100周年事業への協力と参加を要請し、お二人ともに快諾されました。



土木学会 国際センター
韓国 Gr.リーダー
江上 和也

セミナーでは、冒頭に沈鐘成会長、磯部雅彦次期会長が開催の挨拶をされました。お二人とも日韓双方の技術・文化等の面での協力や交流の促進、海外展開等が重要であり、様々な分野での一層の交流が不可欠とお話されました。続いて、日本からは渡辺博志氏（土木研究所）と奥井義昭教授（埼玉大学）、韓国からは丁海文氏（韓国道路公社）と朴環勳氏（韓国建設技術研究院）がそれぞれの専門の立場で発表しました。



講演する奥井教授



セミナー参加者の記念写真

朴慶夫元分会長の司会により、発表者および田中洋氏他3名が加わり、道路橋の維持管理に関して全体討論会が行われました。討論会では、日韓双方の新しい知見や技術に関して活発な議論が行われました。KSCE側として参加していただいた田中氏は、韓国三星物産という韓国最大手の建設会社に勤務し、韓国内の建設技術に詳しく、日本と韓国をつなぐ役割を担っていただきました。なお、当日の通訳は、朴宰満（株）Jiseng 専務理事）にお願いしました。朴氏は、早稲田大学で土質を学び、韓国で活躍されています。今回のセミナーでも韓国在住の日本人技術者、日本の大学や研究機関に留学経験等がある韓国人技術者等が多数参加され、日本と韓国との技術面でのつながりは強いことを改めて感じました。

また、過去から現在までも様々なところで日韓の技術交流等が本学会を含め行われてきています。今年の6月には海岸工学の国際会議がソウルで、8月には西部支部、韓国分会とKSCE、CICHE（中国土木水利工程学会(台湾)）によるセミナーが釜山で開催されます。また、来年4月には韓国大邱で「世界水フォーラム」が開催されます。今回を1回目として、毎年日韓双方で様々な分野での技術交流を継続していくことが、日本の建設技術の海外展開や国内へのフィードバックにもつながること、人的ネットワークが構築されていくことを期待します。最後に今回のセミナー開催に当たりまして、朴慶夫元分会長、李東郁分会長のご尽力、KSCEのご協力に感謝いたしますとともに、視察等でアテンドいただいた沈名弼次期会長、K-WATERの皆様に謝意を申し上げます。

土木学会 国際センターインドネシア分会だより

土木学会の海外分会として、また国際活動の一つとして情報を共有するのは喜ばしいことです。インドネシア分会は、他の海外分会と同様に、インドネシアと日本の土木技術者間をつなぐ、そして協力の可能性をサポートする役割を持っています。2007年以來、私はインドネシア側の代表を務めています。当時の土木学会長濱田政則教授と在ジャカルタの鈴木智治氏との協力によって分会が設立されました。その時私はインドネシア大学の副学長でありました。分会設立後、学生、講師、研究者や教授の間で情報を共有しようと考え、大学の土木工学部に本棚を置きました。そこに置かれた大部分の本は日本語でしたが、それでも関係者の関心を引くものでした。

インドネシア分会は、調査、研究そして他の活動を通して分会を強化しようとしています。インドネシアの土木技術者は、日本技術者からより多くを学ぶために、実践面や学術面において将来図を描きそこに到達しようと努力し、今ある課題に立ち向かう必要があります。災害に関する問題への取り組みを通して、現地の技術者や彼らの集まりとの協力が生まれました。日本の大学を卒業したインドネシア人の技術者だけではなく、いろいろな人たちに分会のメンバーになってもらいたいと思います。財源確保、資金調達は、もちろんどの専門家協会にとっても課題であり、会費から資金を工面することは容易ではありません。そのため企業会員やスポンサーの資金力が求められます。土木学会本部には、分会が存在し続けるために、よりしっかりとその役割を果たすことを期待します。新たに資金を追加することが唯一の財源確保ではなく、研究や実務における活動を創出することに可能性を見出せるでしょう。

インドネシアのインフラが発展段階にあることを踏まえて、インドネシア分会は、将来においてさらに、より良い、挑戦しがいのある協力をしたいと考えています。インドネシアの経済発展を加速させるためのマスタープランを促進するという国家政策は、早期に国内の連結を進めています。この連結とは、都市のインフラ発展、国家経済の成長を支えるロジの整備を含む、6つの経済回廊を意味します。インドネシアの経済成長率は、年6%以上の見込みです。世界的な経済危機にかかわらず、経済成長は堅調のようです。現在首都ジャカルタはJICAの協力のもと、大量高速輸送(MRT)を建設中であり、経済成長を支えるインフラと住環境の整備も進んでいます。

土木学会インドネシア分会は国の長期開発に大きな貢献ができるのか、気になるところです。それは、本部と強く協力することで困難ではなくなり、また、将来、持続可能な環境にやさしいインフラ整備を進める学者や技術者へ還元されることでしょう。これは、他の海外分会も同様でしょう。

【記：インドネシア分会長 Prof. Sutanto Soehodho】

国際センターの活動（土木学会会長 橋本 鋼太郎）

国際センターが発足して早くも2年が経過しようとしています。当センターのさらなる発展のため、国際戦略委員会を中心に活動の戦略を検討しています。活動の中心となっている4つのグループについて少しお話しします。

センター通信発行を担当している情報グループは、国内外の情報を広く収集して、発信力を強化する必要があります。国際交流グループは、協定や覚書を締結している海外の学協会との継続的な交流を保つべく、国別グループや海外分会を充実して交流を促進していくことが重要です。また国別グループが設けられていない国については、交流のキーパーソンとグループメンバーを強化して情報収集や活動の中心とすべきです。教育グループは、2月12日、3月17日、4月22日の3回で、「日本の建設企業の海外進出を考える」をテーマにシンポジウムを開催します。留学生グループは、昨年につき5月に留学生向け企業説明会を開催します。全国大会ではサマーシンポジウムおよび100周年記念若手Workshopを開催して、若い技術者の交流の場を提供します。

続いて、最近の具体的な活動についてもご紹介したいと思います。昨年12月25日にフィリピン台風Haiyan高潮災害合同調査報告会が東京で開催されました。さらに、1月30日にはフィリピン土木学会と土木学会の共催でUPD-ICE Forum on Structural Resilience with Earthquakes and Typhoons through Sustainable Civil Engineeringがフィリピンで開催されました。

土木学会と海外の学協会との交流としては、1月9日にベトナム国家建設大学のThanh学長が土木学会を表敬訪問し、2月10日にトルコ分会長ハシュケル名誉教授（イスタンブール工科大学）が来会しました。短い時間のなかで、相互の交流や協力について意見交換ができました。

参加型の行事としては、3月12日開催のインドネシア公共事業省ヘルマント副大臣（インドネシア工学会）による講演会や、前出の教育グループのシンポジウムのほか、海外プロジェクト報告会シリーズとして、4月3日開催のボスポラス海峡横断鉄道工事シンポジウムがあります。

この間に、3月7日から3日間の日程でACECC理事会がハワイで開催されますが、ここでは土木学会の100周年国際会議のフォローと、パナマ運河100周年記念事業への我が国の参加を表明します。

以上の活動をもとに、国際交流がさらに活発化し、実り多いものとなることを期待します。



ベトナム国家建設大学代表団来会



第1回国際センター講演会開催

◆イベント案内◆

●第1回国際センターシンポジウム（2014年2月12日開催）

土木学会国際センターは、わが国の建設・インフラ関連産業が海外市場において活躍の場を広げ、世界市場で大きな存在意義を発揮していけるよう、人材のグローバル化に対する支援活動の一環として、第1回国際センターシンポジウムを開催しました。開催報告は次号(第18号)の国際センター通信に掲載予定です。

●日本・インドネシア土木技術セミナー（2014年3月12日開催）

昨今、成長著しいインドネシアの社会資本整備に関して、インドネシアおよび日本の専門家を招へいしてセミナーを開催いたします。セミナー終了後、講演者を交えた懇親会も開催いたしますので、ふるってご参加ください。（参加申し込みはコチラ：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/51>）

イベント情報

- 2014/3/7～9・・・第26回 ACECC 理事会 ハワイ、ホノルル
- 2014/3/17・・・第2回国際センターシンポジウム 土木学会講堂（東京）
テーマ：「海外で勝つために～市場の変化に応じた建設ビジネスモデルとは～」
(<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/54>)
- 2014/4/3・・・ボスポラス海峡横断鉄道工事シンポジウム 土木学会講堂（東京）
- 2014/4/22・・・第3回国際センターシンポジウム 土木学会講堂（東京）
テーマ：「事業の多様化に向けて海外企業の事業展開の現状」
- 2014/5/31・・・留学生向け企業説明会 土木学会講堂（東京）
(<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/52>)

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website（英語版）にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 36 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>

御協力をお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、更に配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくよう御案内いただけませんか。何卒、御協力のほどよろしくお願いいたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- 日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- 英語版：http://www.jsce-int.org/pub/registration/non-international_students
- 英語版（日本の大学等への留学経験をお持ちの方）：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>

◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。国内外の産学官界に所属する技術者、研究者、行政官および学生等に配信すべきと考える記事を投稿してください。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。

国際センター通信をより充実した、読み応えあるものにして行きたいと考えておりますので、ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

Yの独り言

東京はこの冬二回目の大雪。シャベルを買いに近所の工具店に出かけました。雪の中を歩きながら豪雪地帯に住む人たちは、冬に何度雪かきをするのだろうと思っていました。同時に、ある人が雪の少ない地域では、融雪装置を設置するよりも電車の運行時間を調節したり、運行を見合わせる方が費用効果が高いと言っていたことを思い出していました。雪が多く降ろうがなかろうが、人々は日々の暮らしを送りたいのです。

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。

